

組立説明書

電動アシスト自転車



BE-FRD034
BE-FRE034
※特注車含む

組み立てをされる方へ

- 組立説明書をよくお読みの上、正しく安全に組み立ててください。特に「安全上のご注意」は、組み立て前に必ずお読みください。組立説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しないで組み立てたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その組み立てが原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 自転車安全整備士、自転車技士（自転車組立整備士）、もしくは同等の技術を有する方が組み立て・点検・整備を行ってください。
- 工場より出荷された自転車は社内規格によって正常かつ確実な組み立てを行っており、梱包も損傷することの無いよう配慮しております。しかし、輸送中の振動・衝撃により金属部分の接触面などにナジミを生じ、緩むことも考えられます。車輪の振れ、各部締め付けねじ類を点検・調整の上、完全な商品としてお客様にご販売くださるようお願いいたします。
- 前後タイヤの空気圧の点検をお願いします。
- 点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。
- 次回の点検からも取扱説明書の裏表紙にある点検・整備チェックリストをもとに確認してください。
- メンテナンスする際にも組立説明書が必要になります。ご販売店様で保管することをおすすめします。
- 説明で、図などが多少異なりますが取り扱いはほぼ同じです。また、上記記載品番を基本とする特注車（部品の一部が異なる機種）も組み立て方はすべて共通です。

もくじ

安全上のご注意	表紙	組み立てに伴う専用工具「ペダルレンチ」と「六角棒レンチ」は担当の支店 / 代理店にて斡旋しております。
組立方法	2~8	
未組み付け部品明細表	8	

お知らせ

- 本紙には納品時に組み付け調整済の部品についても、再調整の場合の参考として、組み付け・調整方法を載せてあります。
- お客様の車両と仕様異なる部品の組み付け・調整方法についてはお読み飛ばしてください。

安全上のご注意 **必ずお守りください**

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

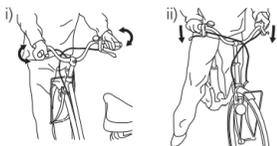
■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。		実行しなければならない内容です。
--	-----------------------	--	------------------

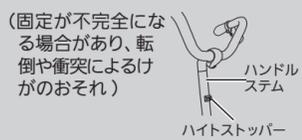
- 締め付け後、以下の i)、ii) で固定が十分か確認します。
- i) 前車輪を両手で足さみ、両手で握り部を強く左右に回して 150N (15 kg f)、ハンドルバーが前車輪に対して回転しないことを確認してください。
- ii) 自転車にまたがり、ハンドルバー握り部を持ち、内側に絞り込むように体重をかけ左右共 220N (22 kg f)、ハンドルバーが回転しないことを確認してください。



iii) ハンドルの調整、固定後ブレーキレバーを握ってブレーキが利くことを確認してください。

警告

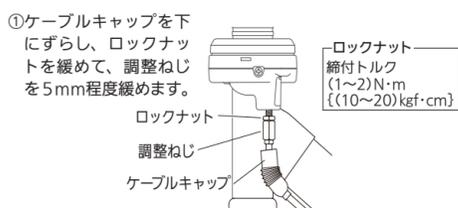
禁止 ■ハンドルシステムのハイトストッパーを外して、ハンドルシステムを一番下まで下げない



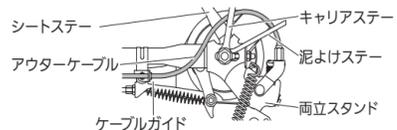
■スタピタの調整・確認(装着車だけ)

警告

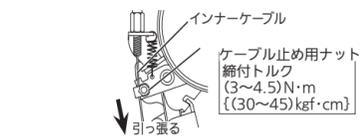
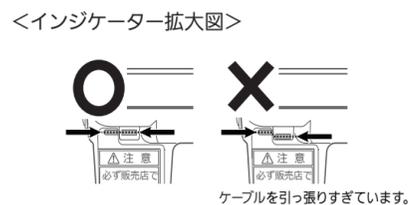
必ず守る ■パンク修理やタイヤ・車輪交換などでスタンドのスタピタケーブルを外したときは、必ずケーブルの調整状態を確認する
(走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)



- ①ケーブルキャップを下にずらし、ロックナットを緩めて、調整ねじを5mm程度緩めます。
- ②スタンドを立てた状態にします。
- ③アウターケーブルをケーブルガイドに通します。アウターケーブルはシートステーの外側、キャリアステーと泥よけステーの内側を通します。



④インジケータを正面（車体後方・サドル側）から見て黄色い調整ラインが一直線になるように、スタンド側のインナーケーブルを引っ張り、ケーブル止め用ナットを締め付けて固定します。ケーブル止め用ナットを締め付け後、もう一度調整ラインが一直線になっているか確認してください。



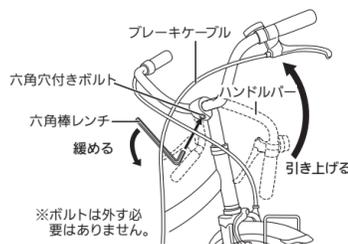
警告

禁止 ■スタピタケーブルを引っ張りすぎない
(走行中にハンドルがロックし、転倒によるけがのおそれ)
⇒必ずインジケータの黄色い調整ラインが一直線になっているか確認してください。

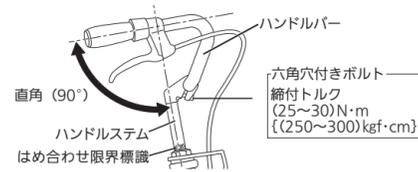
組立方法

■ハンドルバーの調整と固定

①六角棒レンチ（6mm）で六角穴付きボルトを緩め、ハンドルバーを引き上げます。

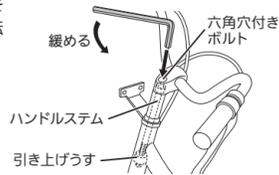


②ハンドルバーとハンドルステムの角度がほぼ直角になるように調整し、六角穴付きボルトを締め付けます。



■ハンドルステムの調整と固定

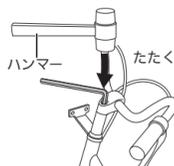
①六角穴付きボルトを反時計方向に2回転して緩めます。



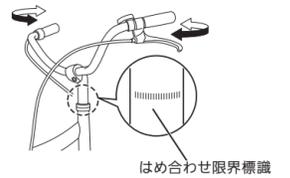
お願い

●六角穴付きボルトを緩めすぎるとハンドルステムの中の引き上げうすが落ちてしまいますのでご注意ください。もし、引き上げうすが落ちてしまったときは、ハンドルステムを抜いて自転車を逆さまにし、引き上げうすを取り出してください。

○六角穴付きボルトを緩めてもハンドルが動かない場合は、六角棒レンチ（6mm）を六角穴付きボルトに差し込んだままハンドルが動きやすくなるまでハンマーでたたきます。※ハンドルが動く場合はたたく必要はありません。



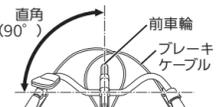
②ハンドルを両手で持ち、回しながら上下に動かし、ハンドルの高さを調整します。



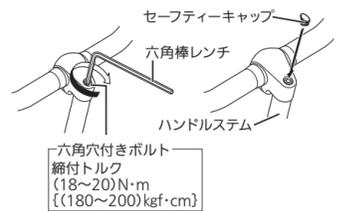
警告

禁止 ■ハンドルステムは、はめ合わせ限界標識以上引き上げない
(ハンドルステムの折れにより、転倒によるけがのおそれ)

③ハンドルバーと前車輪が直角になるように調整します。また、ブレーキケーブルが図のような状態になっていることを確認してください。



④六角棒レンチ（6mm）で六角穴付きボルトを締め付けて、セーフティーキャップを取り付けます。



⑤スタンドを数回動作してハンドルのロック及び解除がスムーズに作動するか確認してください。スタンドを跳ね上げた状態でもスタビタが解除されない場合はインナーケーブルの引っ張りすぎです。スタンドを立てた状態にして、調整ねじを黒矢印（ケーブルが緩む）の方向に回して④の黄色いラインが一直線になるように調整してください。



警告

必ず守る ■ロックナットは確実に締め付ける
(調整が狂い転倒や衝突によるけがのおそれ)

⑦ケーブルキャップを調整ねじに取り付けてください。
⑧スタンド側の余分なインナーケーブルを切断し、インナーケーブルキャップをカシメてください。

警告

必ず守る ■インナーケーブルの先端には、必ずインナーケーブルキャップを組み付ける
(組み付けないとけがのおそれ)

●ブレーキレバーの引きしろ調整

ブレーキレバーの遊びが約 15mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをケーブル調整ねじで調整する。

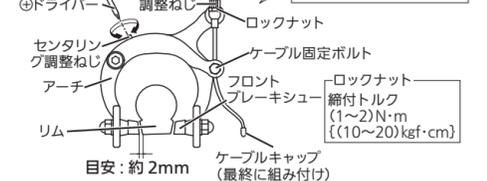
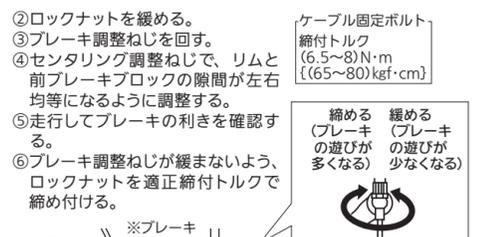


お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

●フロントキャリアブレーキの調整

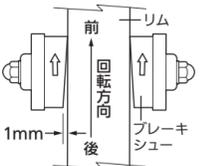
①アーチを握った状態で、ケーブルをケーブル固定ボルトに固定してください。



●ブレーキ〈前・後〉のブレーキケーブル末端処理
○安全のためケーブル末端にはケーブルキャップをカシメてください。

●フロントブレーキシューについて

○ブレーキシューに方向性があります。ブレーキを上側から見て、矢印を進行方向に合わせてください。ブレーキシューがテーパー状になっており、後側に約 1 mm の隙間ができ、異音防止の効果があります。約 1mm

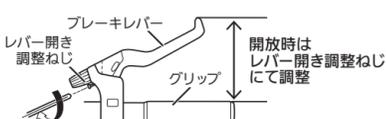


■ブレーキの調整

●ブレーキレバーの開き調整

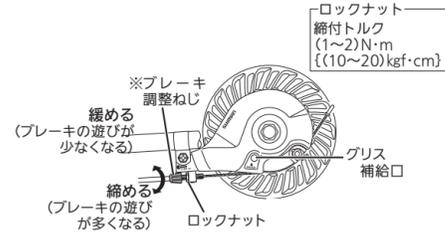
ブレーキレバーの開き調整は、ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回して、操作しやすい位置（ブレーキレバーの引き始めに指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨）に調整する。

○ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は遊びを少なくして再調整してください。



●リアブレーキの調整

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める。
- ②ブレーキ調整ねじを回す。
- ③走行してブレーキの利きを確認する。
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける。



お願い

- 確実な制動力を得るために、通常約1~2年に1回程度はローラーブレーキ専用グリスを補給してください。
- ブレーキをかけた場合、音鳴りがしたり、ブレーキの利きが異常に強すぎたりしたとき、ブレーキグリスの不足が考えられます。ローラーブレーキ専用グリスを補給してください。

警告

●ローラーブレーキグリスの補給には、必ずローラーブレーキ専用グリス (NBPO02) を使用する*

⇒補給する目安は1回約5gです。

●ブレーキシューは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する*



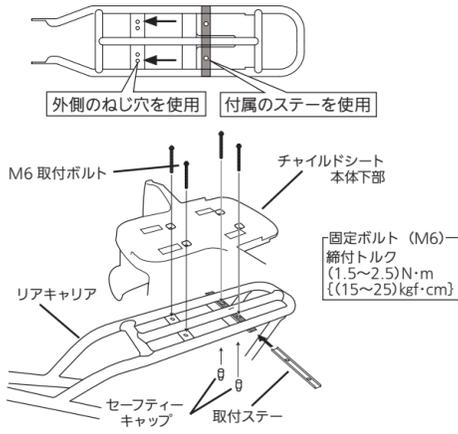
●ブレーキシューは、リムにあった純正ブレーキシューに交換する*

※(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)

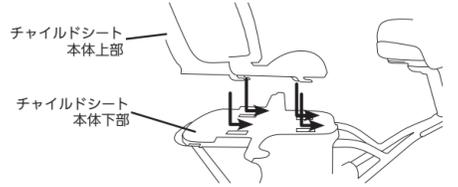
⇒補修部品の品番などは、弊社ホームページ、取扱説明書、パーツリストなどで確認してください。

■チャイルドシートを取り付ける

①本体下部をリアキャリアに組み付けてください。



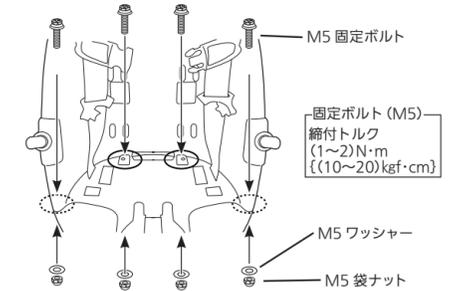
②本体上部のツメを、本体下部の溝に差し込み、前方へスライドさせます。



ご注意

●差し込み部分が確実にはまっていることを確認してください。

③ M5 固定ボルト、M5 ワッシャー、M5 袋ナットで、4か所をしっかりと固定します。



警告

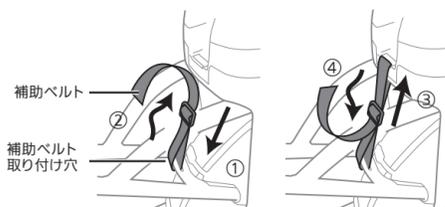
●M5 ボルトとM5 ナットは上下逆に組み付けない

(ねじが緩んだ際にチャイルドシートが分離することで幼児が脱落してけがのおそれ)

必ず守る

■補助ベルトをチャイルドシートに組み付ける

- ①フレームの補助ベルト取り付け穴に通します。
- ②中央の位置でアジャスターに通します。
- ③チャイルドシートに通します。
- ④アジャスターに通し、全体のたるみをとります。



お知らせ

●フレームの補助ベルト取り付け穴は、車種により位置が異なりますが組み付け方法はほぼ同じです。(ごよけ組付け用ブリッジ側に取り付け穴がある場合があります。)

お願い

- 補助ベルトにたるみがないか確認してください。
- 補助ベルトの寿命は約2年です。外観上異常がなくても定期的に交換してください。(品番: NCD013B 420mm)

警告

●補助ベルトをたるませたまま走行しない

(車輪、駆動部などに巻き込み、転倒によるけがのおそれ)

●補助ベルトの余った部分は、アジャスターに通して調整してください。バックルが外れた状態での乗車はしないでください。

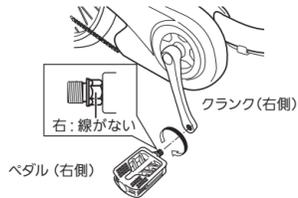
●補助ベルトは必ず取り付ける

(補助ベルトが取り付けられていない場合、リアキャリアが破損したり、M5 固定ボルトが脱落した場合にチャイルドシートと幼児が脱落しけがのおそれ)

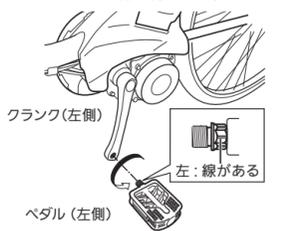
■ペダルの組み付け

※ペダルは左右でねじ方向が違います。右ペダルは右ねじ、左ペダルは左ねじです。

- ①クランク (右側) にペダル (右側) のシャフトを時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



- ②クランク (左側) にペダル (左側) のシャフトを反時計方向に回し、ペダルレンチで締め付けます。



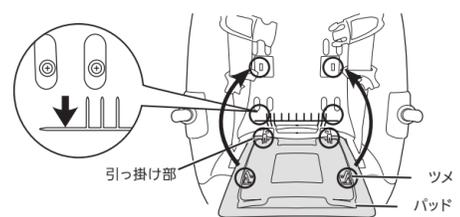
※走行時のクランク回転方向が、ペダル締め付け方向です。

注意

●ヒゲ状のバリを取り除く (バリによるけがのおそれ)

⇒ペダルをクランクに締め付けた際に、ヒゲ状のバリが発生することがあります。バリが残らないように、工具 (ラジオペンチ・ニッパーなど) で取り除いてください。このとき、けがをしないよう注意してください。

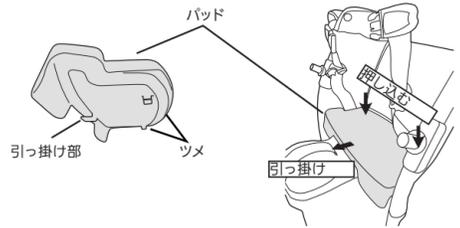
- ④パッド (背面部) を組み付けます。引っ掛け部をチャイルドシート本体に引っ掛け、ツメ部を押し込んで固定します。



ご注意

●引っ掛け部、ツメ部分の差し込み箇所に注意してください。

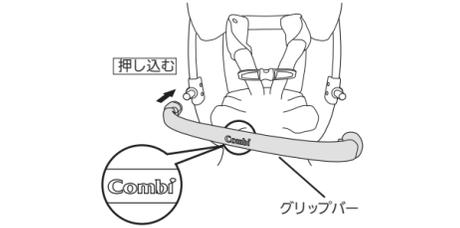
- ⑤パッド (座面部) を組み付けます。引っ掛け部をチャイルドシート本体に引っ掛け、ツメ部を押し込んで固定します。



ご注意

●引っ掛け部、ツメ部分の差し込み箇所に注意してください。

- ⑥グリップバーを組み付けます。Combi マークの向きに注意し、固定側 (ギア側) を軸の突起部分に押し込みます。



ご注意

●向きに注意してください。

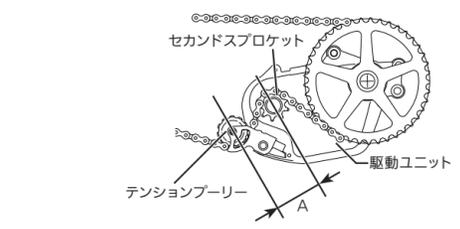
外すとき

- 取り外す場合は、グリップバーを縦にして、差込部分の両サイドの穴 (2mm) に棒を、両方同時に 10mm 程度差し込みピンを押し込んで抜いてください。



■チェーンテンション (張り) の調整

- 出荷時、チェーンの張りは調整済みです。
- メンテナンス時 (チェーンが伸びた状態) にチェーンの張りをチェーン引きにて調整する場合、A 寸法が 60 ~ 68mm が適正寸法です。適正寸法を守らないと、音鳴り、チェーン飛びやチェーン外れの原因になります。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください。

警告

●チェーン調整時、適正寸法を守る (チェーンが外れ、転倒によるけがのおそれ)

必ず守る

■未組み付け部品明細表

チェック	部品名	個数	チェック	部品名	個数
	ハンドルバー・ハンドルステム	1 セット		手元スイッチ (位置調整が必要)	1
	セーフティーキャップ (ハンドルステム用)	1		ペダル	1 セット
	チャイルドシート (本体) 組立セット	1 セット			

上記部品は梱包のために仮組み付けしている場合もありますので、取り付け状態や締め付けを必ず確認、調整してください。

お願い

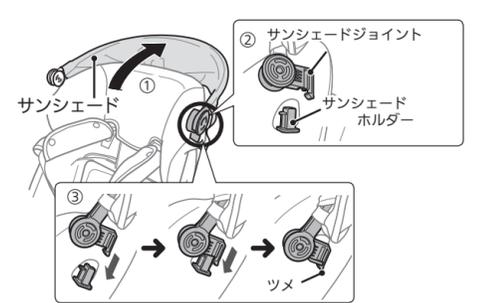
- 保証書に必要事項をご記入いただき、「取扱説明書」とともに必ずお客様にお渡しください。(キーの番号は保証書に印字されています。)
- 防犯登録が義務化されていることをご説明いただき、登録を行ってください。
- お客様に商品をお渡しする際には、バッテリーを満充電してお渡しください。
- 組み立ての済んだ自転車は取扱説明書裏表紙の「点検・整備チェックリスト」にてチェックを行い、必ず実走によるブレーキテストを実施の上、お客様にお渡しください。※点検などに関して詳しくは「取扱説明書」をご覧ください。

標準締付トルク一覧表

M3	(0.8~1.3) N·m	{(8~13) kgf·cm}	ペダル	(35~40) N·m	{(350~400) kgf·cm}
M5	(3.0~5.0) N·m	{(30~50) kgf·cm}	ハブ軸BC5/16	(18~24) N·m	{(180~240) kgf·cm}
M6	(6.0~10.0) N·m	{(60~100) kgf·cm}	ハブ軸BC3/8	(35~43) N·m	{(350~430) kgf·cm}

■サンシェードを組み付ける

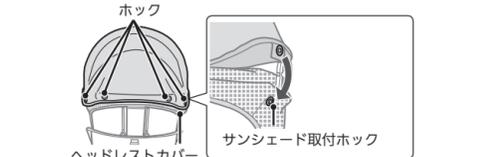
- ①サンシェードを小さくたたみます。
- ②サンシェードジョイントをヘッドレスト側面のサンシェードホルダーにあわせませます。
- ③サンシェードジョイントの下端のツメがサンシェードホルダーにかかるまでしっかり差し込み固定します。



④サンシェード取付ホックが見えるまで、ヘッドレストを引き上げます。

⑤サンシェードジョイントをヘッドレスト側面のサンシェードホルダーにあわせませます。

⑥サンシェード背面の左右のホック (4 か所) を、ヘッドレストカバーのサンシェード取付ホックに取り付けます。

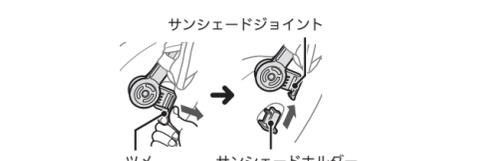


⑦サンシェードジョイントがサンシェードホルダーにしっかり固定されており、サンシェード背面の左右のホック (4 か所) がヘッドレストカバーに取り付けられていることを確認します。

外すとき

①サンシェードを小さくたたみ、サンシェード背面の左右のホック (4 か所) をはずします。

②サンシェードジョイントの下端のツメを指先で引きながら、サンシェードホルダーから取りはずします。



■ラクイックシステムの動作確認 (装着車のみ)

- ①電子キーの ON/OFF ボタンを長押しし、作動可能状態にする (電子キーと後輪サークル錠の相互認証)。
- ②手元スイッチの電源ボタンを押す。
- ③後輪サークル錠を開錠する。
 - ・電源ボタンを押すことで、後輪サークル錠が開錠されます。
 - ・開錠できない場合はアラーム音が鳴ります。
- ④後輪サークル錠が開錠されているか確認する。

緑色 (作動可能状態)	ラクイックシステムの認証ができる ※通常はこの状態で使用します。
赤色 (作動停止状態)	ラクイックシステムの認証ができない

※作動範囲は発信機位置より最小で約 1.2m 以内、最大で約 3m 以内の範囲です。

ON/OFF ボタンを軽く押し LED が点灯し作動状態が確認できます。

電子キー

お知らせ

- 電子キーの ON/OFF だけではラクイックシステム (後輪サークル錠) は作動しません。
- ラクイックシステムは、微弱電波を使用しているため、使用環境により作動範囲が広くなったり、狭くなったりすることがあります。また、以下の使用環境では正常に作動しないことがあります。
 - ・電子キーの電池が消耗しているとき
 - ・近くにテレビ塔や発電所、ラジオ局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
 - ・電子キーと一緒にノートパソコン、ラジオ、携帯電話などの無線通信機器を携帯しているとき
 - ・電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき (カバンの中に入れてあるなど)
- バッテリー残量表示ランプの LED が 1 つ点滅している場合、ラクイックシステムでの開錠ができません。